

「誇り」

新シリーズ ～十字架～

目標無き暴走

- 20世紀の人類は、能力とエネルギーを正しく使うことができず**暴走した**
- 21世紀の人類は、その**後始末**に追われながら、自分たちの行くべき道を探している
- しかし、自分自身の中に目標を見出そうとすると、結局**自己中心的**になる
- 自己中心は**自己を滅ぼす**結果となる

自己申告された目標

- 「イエスは言われた。『わたしは道であり、真理であり、命である。』」<ヨハネ14:6>
- 宗教家は道を指し示し、真理を教え、命について語った。しかしイエスは自分自身が「道であり、真理であり、命である。」と明言したのである。
- この目標の正しさは、二千年間、世界中で実証された

イエスを目標にした最初の人

「しかし、このわたしには、わたしたちの主イエス・キリストの十字架のほか、誇るものが決してあってはなりません。この十字架によって、世はわたしに対し、わたしは世に対してはりつけにされているのです。」

<パウロの言葉／ガラテヤ 6:14 >

パウロはイエスを主と呼んだ

- 「主」(ホ・キュリオス)とは
 - 仕えるべき主人
 - 学ぶべき師
 - 従うべき指導者
- 彼にとってイエスは過去の人物ではない

パウロはイエスをキリストと呼んだ

- 「キリスト」とは
 - 神から遣わされた人
 - 命の恩人
 - 解放者
- パウロは自分では自分を救えないことを知っていた

十字架のほかに誇らない

- 主でありキリストであるイエスのすべてが「十字架」に表されている
- パウロには誇れるものが数多くあった
- 十字架の価値は何ものにも勝る
- 十字架以外に誇ることは恥であった

パウロ



世界





パウロ

世界

このわたしには、わたしたちの主イエス・キリストの十字架のほかに、誇るものが決してありません。